

秋のレビュー

～5分でわかる

ムダの削減のポイント～

ムダのよく見られるパターン

【家庭では…】

子どものためにピアノを買ったが、ほとんど使われていない。



【行政では…】

道路や施設を公費で建設したものの、ほとんど使われていない。

会話不足のため、夫婦がそれぞれ同じものを買ってきてしまった。



各省がバラバラに同じような事業を行っていた。

効果が上がっているのかよく考えずに、次々と健康グッズを購入した。



成果を検証しないまま、同じような事業を、名称を変えつつ継続していた。

事業目的

(解決すべき課題)



事業

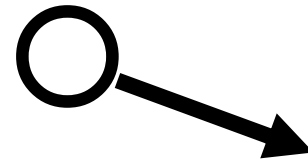


現状

典型的なムダの例



道路建設



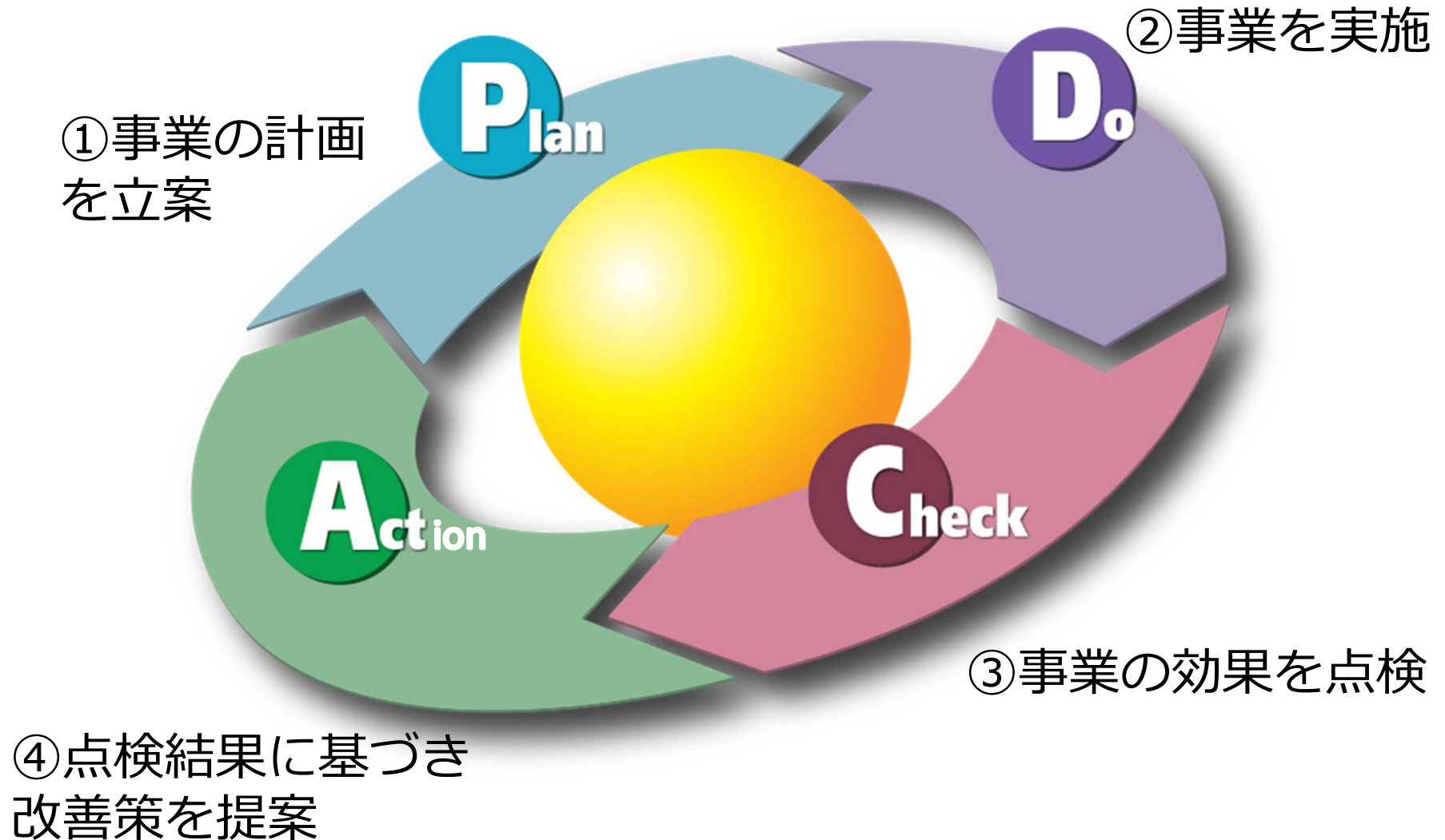
マッサージ

チェア購入

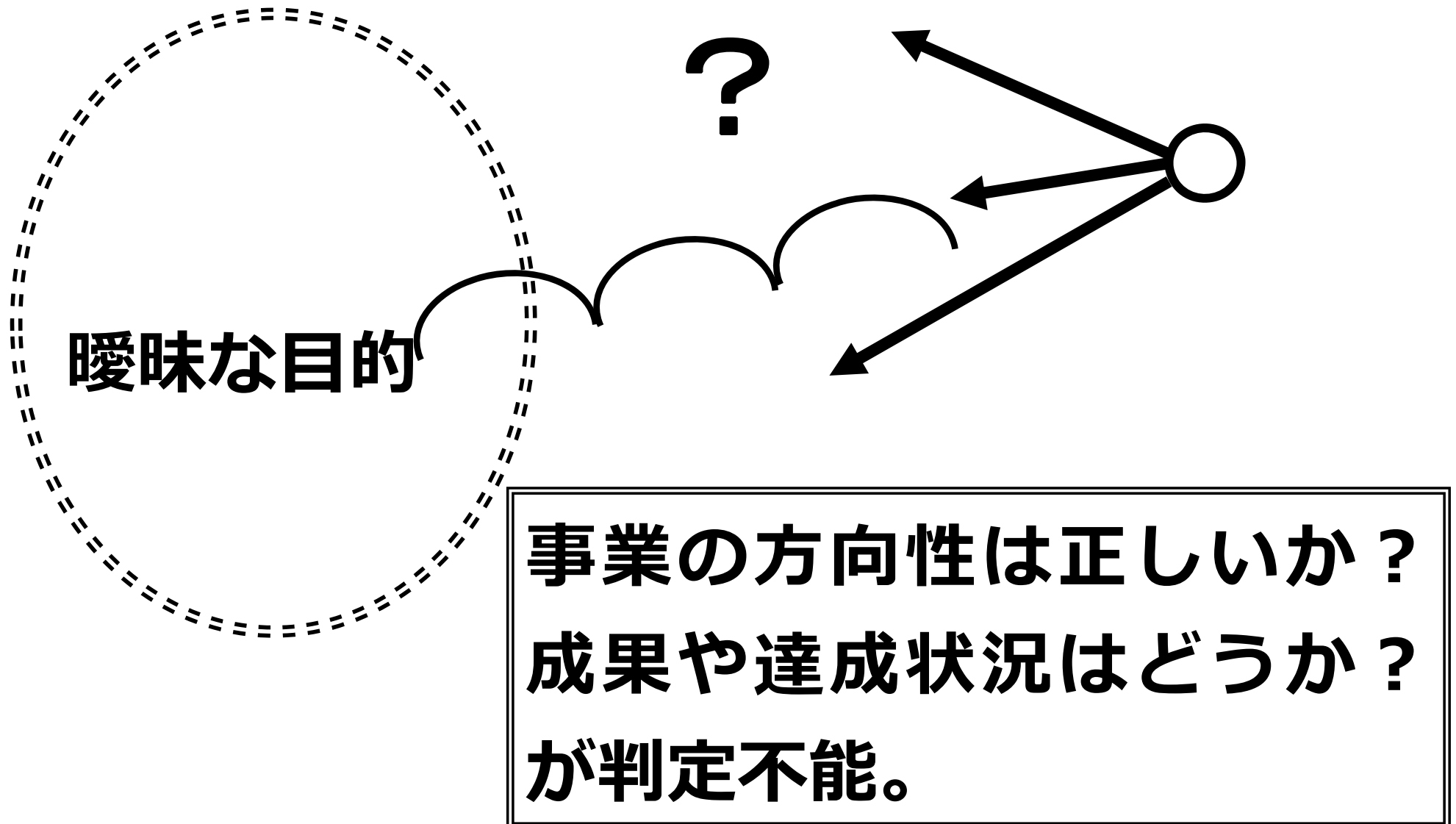
今回の検証のポイント

- ① 事業目的は明確か？
- ② 事業は有効か？
- ③ より低コストな手法に改善できな
ないか？
⇒ PDCAは回っているか？

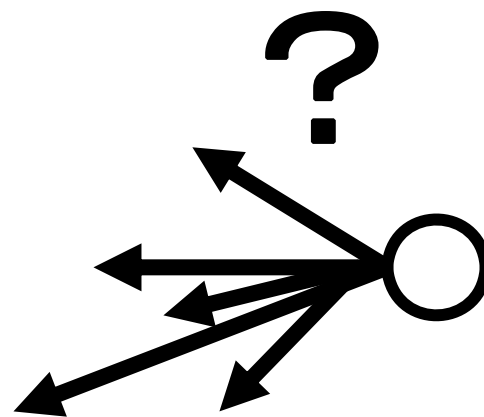
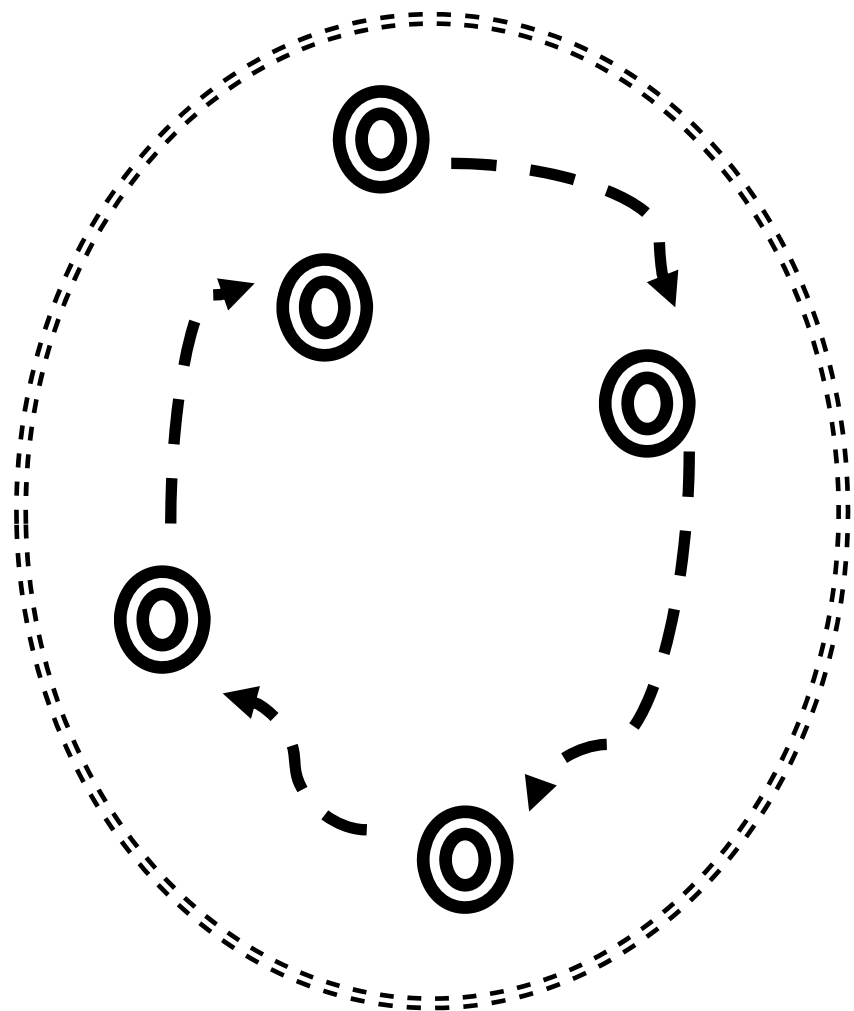
P D C A サイクル



① 事業目的は明確か？



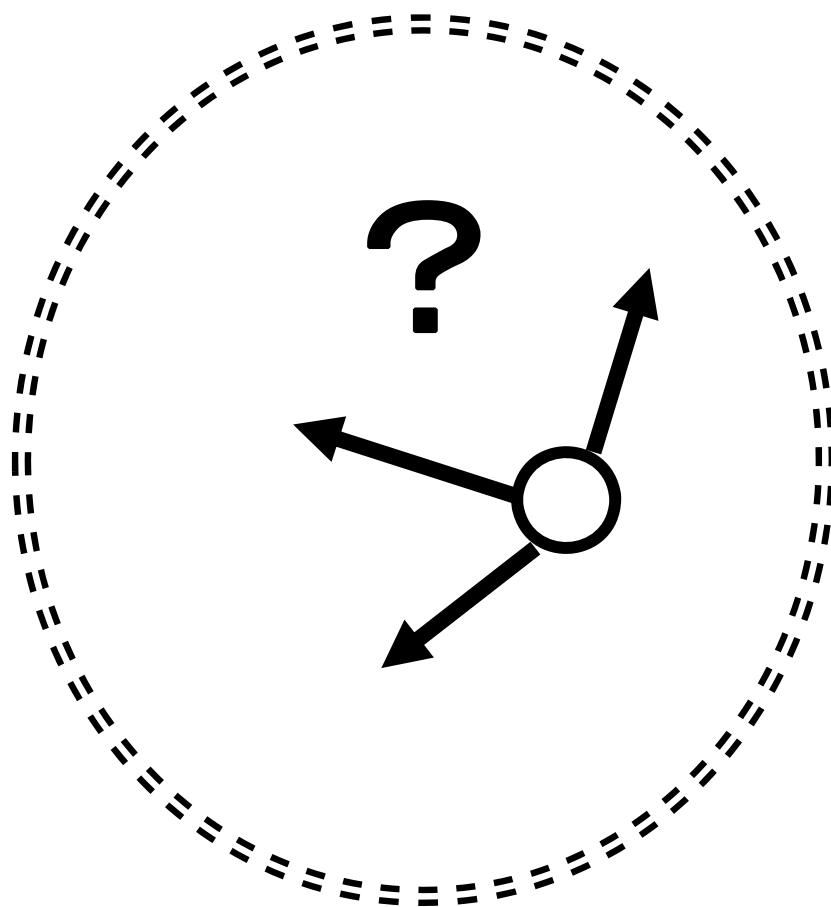
看板架け替え（目的の中で動く）



曖昧な目的の中で、頻繁に看板を架け替え、評価せずに店じまい。⇒事実上ずっとやり続ける。

事業の実施が目的に

なってしまうている事業

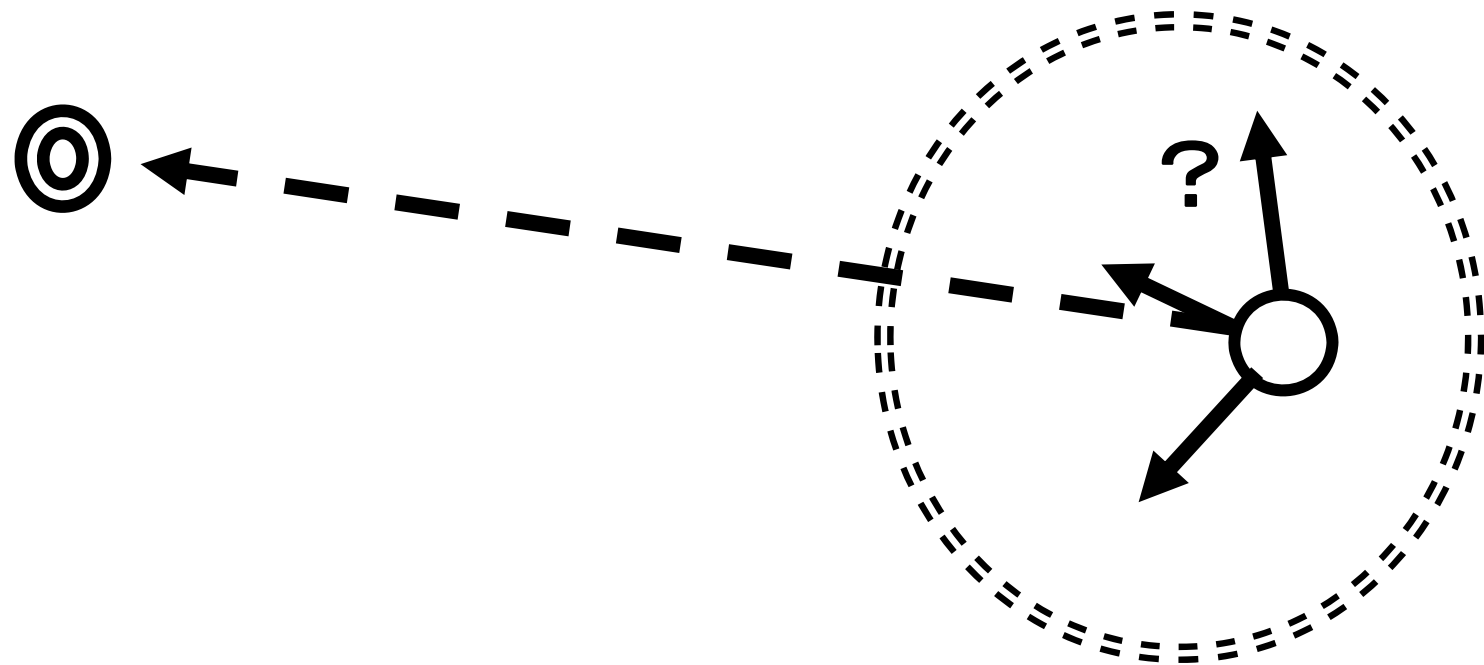


**事業の実施が目的。本当の
目的も成果も問われない。
⇒より有効な手法を検討す
る機会も喪失。**

本来の目的を考えて、立案することが重要

(ニーズを汲み上げる事業から

ニーズを解消する事業へ)



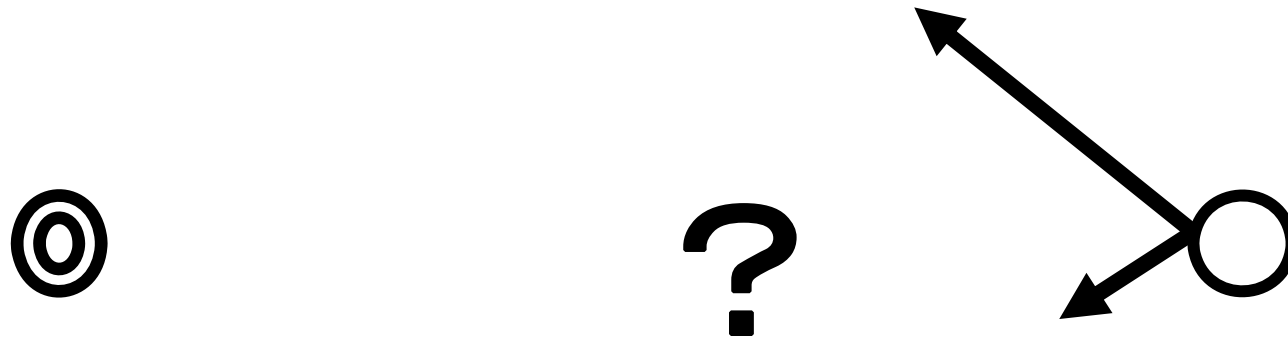
目的が明確でも、それは国がやるべきか？



**国のやる
べきこと**

**事業の目的は、民間が
やるべきものではないか？**

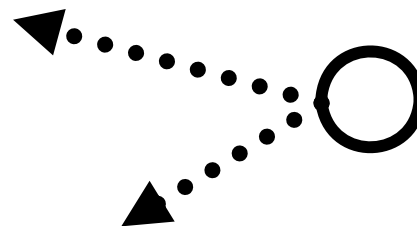
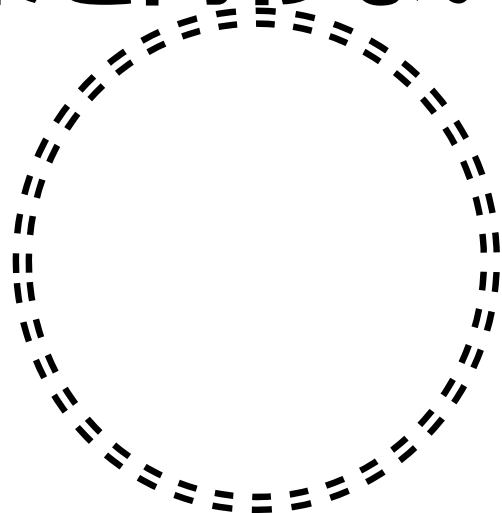
② 事業は有効か？



手法が目的達成につながらない。

⇒未達成のまま、いきなり事業が終わり、別事業に変わることも。

成果を問わない事業



成果はすぐに出ない、定量化できないと決めつけて、事業実施や財政投入（インプット）ばかりが注目。

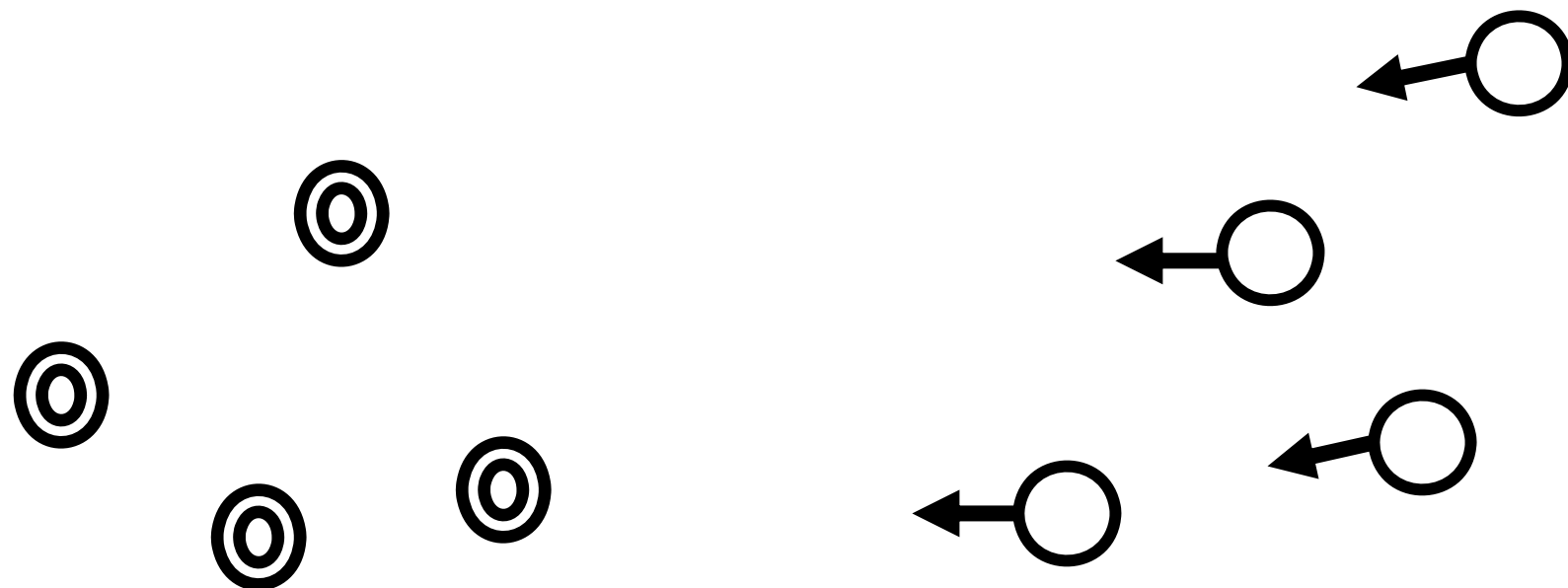
⇒実施団体補助が目的にもなりかねない。

成果が小さく、達成時期の不明な事業 (アリバイ事業)



方向性は沿っているようでも、いかんせん効果が限定的で、問題解決にもつながらない。

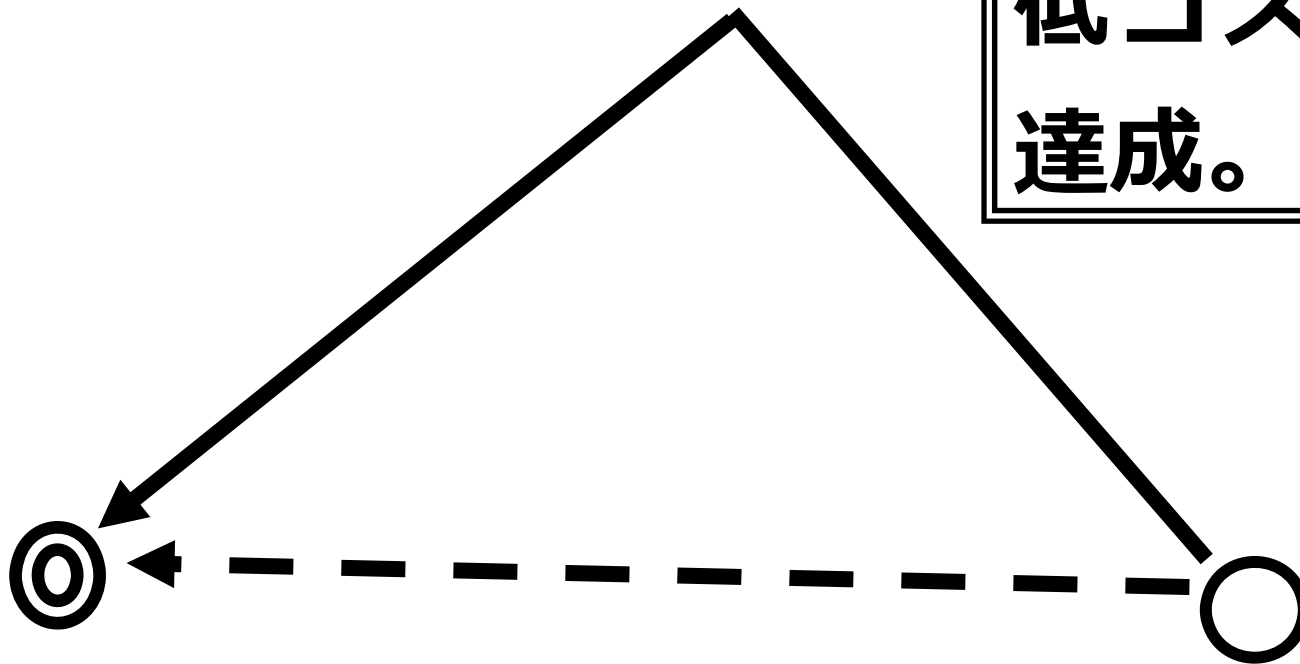
モデル事業



モデルと称して、その横展開を図ると言うが、補助金が切れると事業は終わり。横展開も検証もなく、また新たなモデルに取り組む。

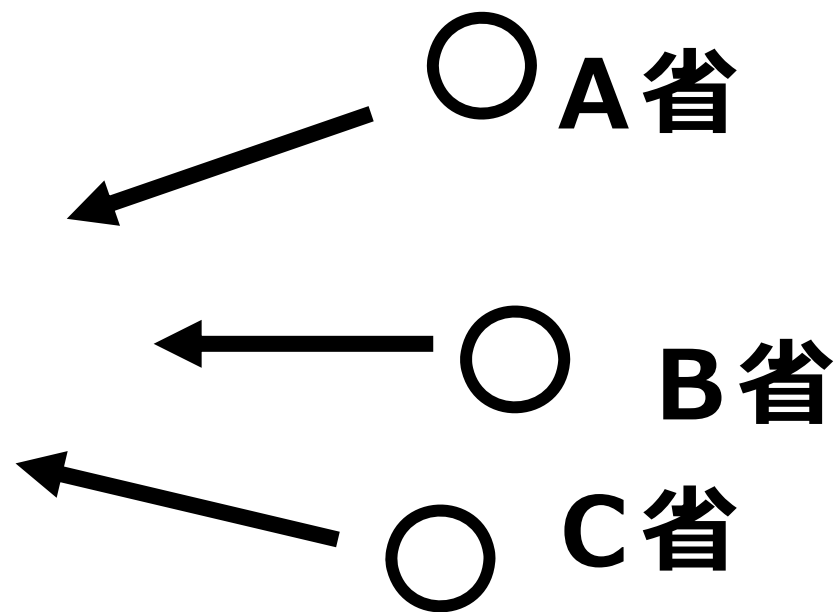
③ より低コストな手法に改善できな いかな？

手法を工夫し、より低コストに目的を達成。



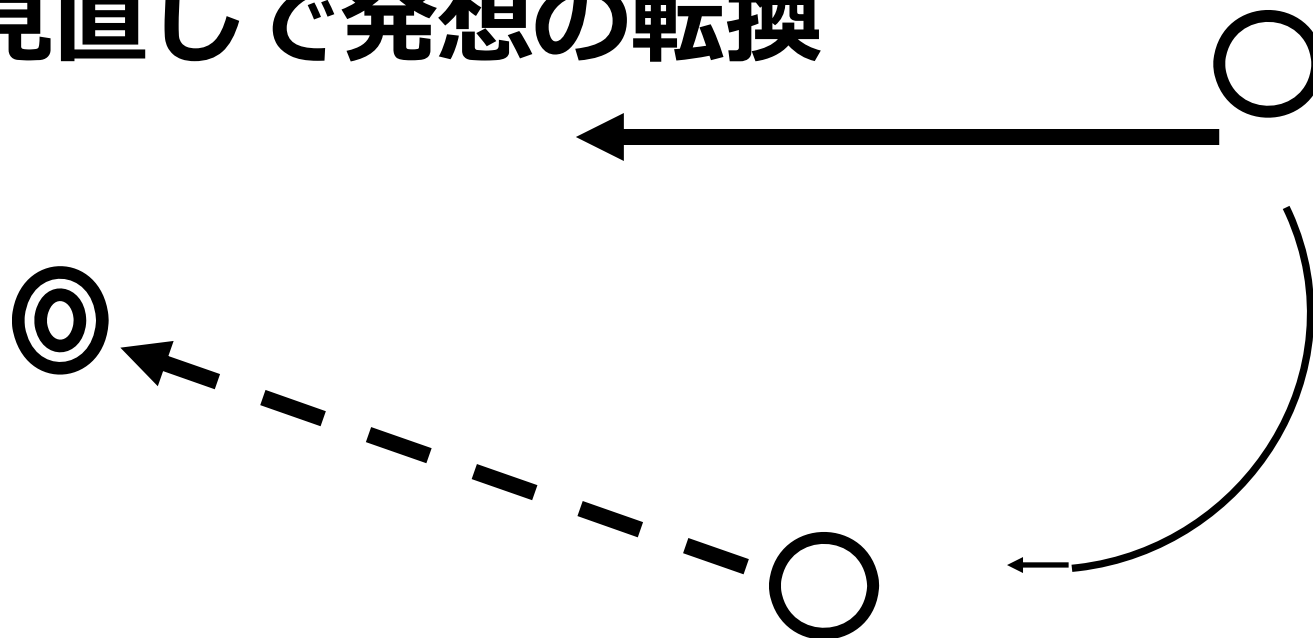
重複事業

◎



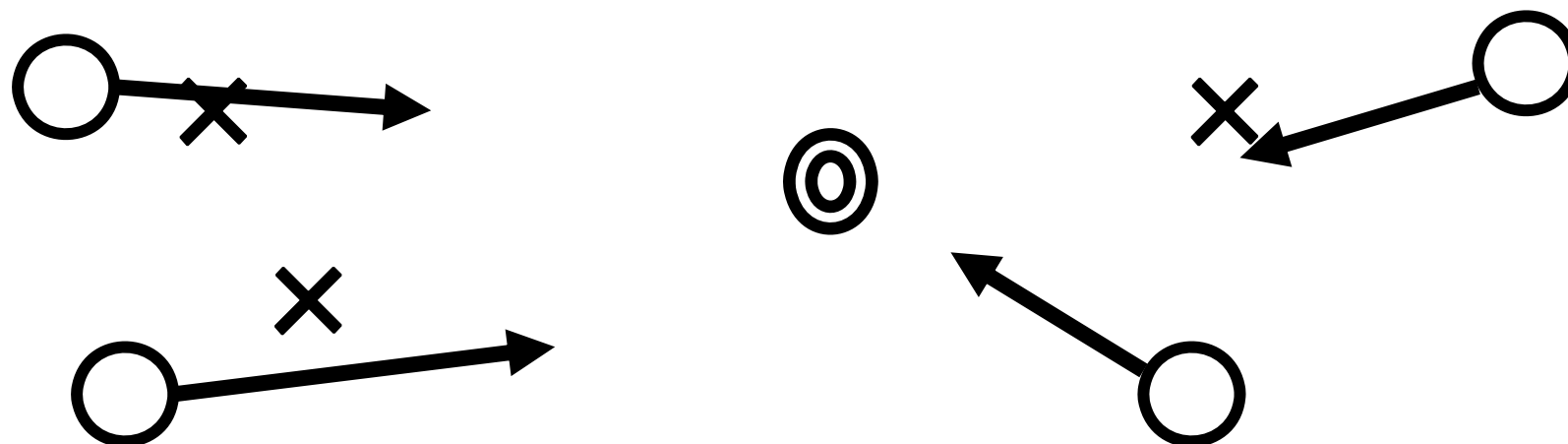
各役所が同様な事業をバラバラに実施。
デマケはあると言うが、効率化余地あり。

前提の見直しで発想の転換



事業の前提や出発点、ゲームのルールを
大胆に見直すことで、より低コストで効
果的な手法が見つからないか？

優先順位を考える（その1）



事業には何かしら取り柄がある。しかし、資源や予算は有限。⇒“多々益々弁ず”ではなく、優先順位が劣後するものはやめないと国民負担のみ膨張。



優先順位を考える（その2）



目的も同じ。何を国がやり何を民に委ねるか、優先順位を考えないと国民負担には切りがない。

なぜムダの見直しが必要か？

- 国の財政は厳しく、歳入の半分は借金。
 - ⇒ ムダ、効果の薄い事業をやる余裕はない。
 - ⇒ それは、国が借金してまでやるべき事業か？
- 事業は結局、国民の税・保険料で負担。
 - ⇒ それは増税してまで、やるべき事業か？
(自腹をきってまで・・・)

- **効果的な政策立案に向けて**

**⇒ P D C A を通じたチェック
(秋のレビュー)**